

## アルス国際製靴学校研修体験記

tokyo toff 大河 なぎさ  
株式会社ピース 池田 悦子

### I 学校編—ARSUTORIA Schoolパターンメイキングコースを受講して

今期のパターンメイキングのクラス編成は2クラスで、1つは主にイタリア人が在籍した10人のクラスでイタリア語で授業が行われ、私達を含む外国人20人のクラスは英語で授業が行われました。実技以外の講義は合同で英語、イタリア語の両方で解説がありました。

学校での授業は、午前9時から13時までと昼休憩を挟んで14時から17時までで、授業が月曜日から金曜日までの週5日間、合計12週間行われました。その期間の中で主に代表的な靴のデザインの型紙製作の技術を学びました。

実技の授業は、デザイン画を元に、スタイルを読み取り、1デザインを半日から1日かけて、各工程毎に生徒が講師の卓を囲むスタイルで実演と解説が行われ、解説の後に各自が自席にて作業を行い、各工程毎に講師のチェックを受けます。作業が早い生徒は類似のデザイン画を受け取り、応用課題として取り組むことができました。

クラスメイトの多くは型紙製作の経験がなく、講師の解説中も非常に熱心にノートを取り質問も多く、常に活気のある雰囲気の中で学ぶことができ充実した日々でした。学校から支給されたファイルは、製作した型紙で僅か2週間ほどでいっぱいになりました。

学校には私たち日本人2人以外にアジア人は居らず、メキシコ、ブラジル、コロンビア、ペルー、アメリカ、グアテマラ、インド、スペインなど世界中から集まっており、それぞれに非常にユニークなキャラクターの持ち主で一緒に学ぶ中で面白い経験が多くありました。使用していた文房具が注目を集めたり、数名に分かれてのグループでの課題や試験前の放課後勉強会の際には「日本人は常に正確だ。」という発言があったりと、当たり前だと感じていたことがそうではない環境で学ぶという貴重な経験ができました。



放課後の自主勉強会

日本で学んだ型紙製作の技術と同様、または近い事項もありましたが、大きな相違点として、日本では、始めに木型にデザインのラインを入れてそれらをテープにうつしとり平面化していく手法なのに対して、

アルスでは始めに平面化した木型の原型を使用して各デザインに設けられた明確なルールに従ってデザインのラインを平面に描いていくという手法でした。

それらのルールがとても的確に設定されていて、作成した型紙を元に紙で作ったアッパーでテストをするとピッタリとデザイン面のラインが木型に乗っているのが確認でき驚きました。

卒業制作では各自自由なデザインで型紙製作をし素材の選出や仕様の決定、修正など靴メーカーでのサンプル製作に近いかたちで一連のデザイン作業を行いました。製甲職人、底付け職人、仕上げ職人と打合せをするなかで日本とは異なる「美しさ」や「効率化」、「機能性」に対しての考え方に触れることができました。



プロトタイプの製作過程



プロトタイプ講評会

3ヶ月という長い期間、日本での仕事を休むことに不安を抱きながら研修へ向かいましたが、夢中になって勉強できる環境に身を置き、多くのことを学び新しい技術と各国の仲間を得ることができたことは、今後靴の事業を続ける上で大きな力となることと思います。このような機会に恵まれましたことに感謝し、日々研鑽を積み事業発展の為に励みたいと思います。



卒業式

## Ⅱ ミラノでの生活

89日間の海外研修は、あっという間で毎日充実した日々を過ごす事が出来ました。イタリア、ミラノにあるアルス国際製靴学院 / Arsutoria Schoolでの今回の研修、恵まれた環境の中で、さらに海外で生活する

という貴重な経験をさせて頂き、大変感謝しております。こちらの章ではミラノでどんな生活をしていたか、紹介させていただきます。

宿舎は、教室と同じ建物内にあるワンルーム。部屋の広さは日本のワンルームとほとんど変わらない大きさで、ソファベッドや机、収納家具付です。エレベーターを降りるだけで教室に着くので、昼休みや授業後の空いた時間は自分の部屋で授業の復習やリラクセスすることも出来ました。クラスメイトの半数くらいは、同じ宿舎に住んでいて、放課後にテスト勉強したり、日本食を作って一緒に食べたりもしました。

週2日、床拭きやトイレ・浴室の掃除、タオルの交換など清掃箇所を分けて、掃除が入りました。部屋や教室は、Wi-fiが通っていて、家族や友人との連絡も問題なく取れました。出発前に何人かのこの研修体験者から話を聞く機会がありましたが、聞いていた話より生活環境はどんどん改善されていてあまり不自由を感じる事なく生活出



部屋

来ました。

近くにはスーパーやショッピングモールもあり、毎日の食材の買い物も楽しかったです。特に美味しかったスーパーの食材は、生パスタ、ニョッキ、サラミ、トマト、チーズなど。野菜も豊富な種類が店頭で綺麗に並べられていて、海外のスーパーは好きな場所の一つです。土曜日は、市場に行きました。市場では、日用品はもちろん、新鮮な野菜、肉、魚も売っていて、ミラノ地元の人に交じっての買い物も貴重な体験でした。いらっしゃい、いらっしゃい…と繰り返す活気のある掛け声は日本の市場と同じでした。



スーパー



市場

ミラノには、郊外へは鉄道、市内は鉄道やトラムやバスが充実していて、交通機関は東京と同じくらい便利です。平日の授業の後は、レンタルサイクルやトラムに乗ってミラノの街中を散策しました。ミラノは道が入り組んでいて難しく、毎度迷子になっていましたが、綺麗な建物が並ぶ街並みや街の中心部にあるドゥオーモを眺めるのが大好きでした。ミラノは小さな街で宿舎から自転車で20分～30分で行きたいところへ行けます。街の人々は、お年寄りまで皆個性的でお洒落な服装の人が多く、散策するだけで刺激になるファッションの都市でした。



ミラノ中心部



ミラノ市内 ドゥオーモ



ミラノ街中

学校が休みの土日には、イタリアのフィレンツェ、ヴェネチア、チンクエテッレ、ナポリ、アマルフィなど電車や飛行機で旅行も行きました。休みがもっとあれば、もっといろんな場所へ行きたかったです。旅先では、観光はもちろん、靴の修理士、革小物の職人、レザージャケットのデザイナー、寄せ木細工を作る職人など色んな職人にも出会い、工房を見せてもらったり作業工程を見せてもらったり、色んな話も伺え、モノを作る人の心は皆同じだな、そしてモノづくりは素敵な事だと再認識しました。「どこから来たの?」と聞かれて、「TOKYO」と答えると毎回相手の態度が変わりました。“東京”という地名はブランド名のよう

になっていて、素晴らしい所に居るんだな、と改めて感じました。

今後は、この海外研修での経験を生かし自ら成長し、東京の靴業界に貢献できる様、精進したいと思っております。

最後に、この度研修の機会を与えてくださった東京都産業労働局、東都製靴工業協同組合の皆さま、派遣研修事業に携わった全ての方に心より感謝申し上げます。



靴の修理士(ヴィジェバノ)



ポンペイ遺跡



フィレンツェ



アマルフィ海岸